

ファッションビジネス学会

総 会 資 料

2023・5



The Japan Society for
Fashion Business

2023年度 ファッションビジネス学会 定期総会

2023年度 ファッションビジネス学会 定期総会によせて

会長代行 岡本 義行

今年も定期総会が訪れました。コロナはようやく終息が見え始めましたが、ウクライナ戦争の行方は見えません。エネルギー価格の高騰だけではなく世界経済の構造はアメリカ・西欧とロシア・中国との対立の中で大きな変化を予感させます。CO²削減・環境問題、SDGs、といった喫緊の課題もあります。またDXもchat GPTの普及によって異次元の社会変革も予想されます。

本ファッションビジネス学会は「活性化5ヵ年計画」の実施途上にあります。本学会の活性化に向け、会員増や各種活動の強化に取り組んでおります。しかし、会長の逝去にともない、組織と運営体制の根本的見直しに取り組まざるを得なくなりました。会員各位に参加いただき議論を深めていきたいと考えております。学会の研究能力および発信力を高める仕組みと活動を進めてまいります。

現在、2030年に向けたファッション提言を鋭意作成中です。国内市場における国内製造のアパレル製品の市場占有率は3パーセントにも達しません。製品輸出に至ってはほとんどゼロといって良い状態です。百貨店やGMSにおけるアパレル製品の販売もかつてのような賑わいはありません。こうした状況を打開するためにも、次の時代の方向性は必要であると認識しております。できるだけ具体的な内容の提言にしたいと考えております。まずは現在日本の課題となっている人材の高度化・専門化に対応したいと思っております。

ファッション産業の再生に向けた取り組みを主導できるアイデアを会員のみなさんとともに最終的に練り上げたいと考えております。既に掲げましたビジョン、「ファッションとファッションビジネスで心豊かな未来を創造」するためのレジリエンスを形成する学会として取り組みます。ご協力いただきますようお願いいたします。

定期総会	総会 第1号議案 2022年度事業報告と決算承認の件 第2号議案 2023年度事業計画と予算承認の件 第3号議案 2022年度活性化活動結果と2023年度活性化計画の件 第4号議案 運営規約の一部改正について 第5号議案 役員並びに名誉会員名簿
特別講演会	<p style="text-align: center;">特別講演</p> <p style="text-align: center;">テーマ：新・ラグジュアリー — 倫理、ローカル、ヒューマニティから始まる新しい文化 — 講師：服飾史家 中野 香織 氏</p>

ファッションビジネス学会 定期総会

第1号議案

2022年度 事業報告と決算承認の件

(2022年4月1日～2023年3月31日)

事業報告

1 2022年度定期総会と特別講演会

2022年5月14日(土)に新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、オンラインリモートにおいて開催され、各議案がそれぞれ承認された。

- 第1号議案 2021年度事業報告及び決算承認の件
- 第2号議案 2022年度事業計画及び予算承認の件
- 第3号議案 2021年度事業計画及び2022年度活性化予算承認の件
- 第4号議案 運営規約の一部改定の件
- 第5号議案 役員並びに名誉会員名簿の件

総会後に関係者、学生を含め、オンラインリモートにおける特別講演会及び講演会に引き続きメタバース・VR空間による交流会を実施、延べ190名余りの参加のもとに学会及び業界の今後を示唆する大変貴重な講演会となった。

特別講演 テーマ：「ファッションビジネスおよびファッション教育研究におけるDXの重要性についての考察」

講師：株式会社FMB 代表取締役 市川 雄司氏

2 2022年度全国大会の開催

コロナ禍が収まりを見せる中、対面形式にて2022年11月26日(土)に東日本支部の主催において開催された。「ファッションビジネスにおけるニューノーマルーサステイナブルの現状と今後」をテーマに基調講演から口頭研究発表・ポスタープレゼンテーション、交流パーティーまで、盛会のうちに終了した。

本部研究発表 口頭発表6報

3 論文誌発行

デジタル版への切替にあたり、フィジカル版最終号のVol.27を2022年6月に発行した。

4 研究部会活動 *順不同

関東エリアと関西エリアの全研究部会の報告

■関東エリア

研究部会名	服装社会学研究部会
部会長/代表	田中 里尚
メンバー	87名
活動結果	2022年度もコロナ禍等のために活動できなかった。
活動予定	ファッションリソースセンター所蔵の資料を用いた研究会を開催予定。

研究部会名	戦略研究部会
部会長/代表	首藤 眞一
メンバー	26名
活動結果	2023年2月 外部講師を招き講演会を開催 講演テーマ：「ファッションビジネスにおけるNFTの活用」 外部講師：株式会社ジョイファ 代表取締役 平手 宏志朗
活動予定	①部会メンバーによる基調報告とディスカッションを中心とした研究部会を実施する。 2023年7、10月、2024年3月に実施予定（合計3回） ②外部講師による講演会を開催する。 2024年2月に実施予定

研究部会名	customizing design（カスタマイジングデザイン）研究部会
部会長/代表	住野 雅子
メンバー	6名
活動結果	5月21日(土) ファッションビジネス学会東日本支部 第21回定期総会参加 6月17日(金) 3Dボディの将来について 会議（15:50～16:20）キイヤ参加 10月6日(木)、13日(木)、20日(木) エフォート 各日／2時間 研究時間 総まとめ 11月26日(土) FB学会2022全国大会 口頭発表 消費者個人適合型商品工業生産創造システムの活用方法 —第6報 ジェンダーレス 学生服—（住野 他） 2月10日(金)～12日(日) USA 体形視察（アジア体形との比較）（住野） 3月22日(水)～24日(金) 奄美大島体験研修（住野 他）原絹織物参加
活動予定	5月 ファッションビジネス学会東日本支部 第22回定期総会参加 6月 3Dボディの将来について 会議（参加者未定） 10月 エフォートによる研究を行う。総まとめ 11月 FB学会 口頭発表（部会者） 3月 奄美大島体験研修

研究部会名	IT時代のファッションビジネス研究部会
部会長/代表	熊崎 高道
メンバー	5名
活動結果	<p>* ファッションビジネスをAIを使って企画表や生産表、販売企画表など作成方法を研究。 企画表、生産表、販売企画表の作成 分析結果をもとに、AIは企画表、生産表、販売企画表を作成します。これにより、最適な商品ラインナップを提供することができます。</p> <p>* AIによるファッション業界と大学での活用の仕方を研究。 商品のデザインや生産の最適化 AIを使用して、商品のデザインや生産プロセスを最適化することができます。例えば、商品のデザインをAIが最適化することで、より効率的かつ高品質な商品を生産することができます。</p> <p>* AIを使った電子書籍の販売の仕方を研究 ソーシャルメディアを利用して、AIによるターゲティング広告を活用し、ターゲット層に向けた書籍の販売を行うことができます。また、インフルエンサーやブロガーと提携して、その影響力を利用した販売促進を行うこともできます。</p> <p>* ファッション関連の電子書籍（熊崎高道書）は、日本、アメリカで拠点があり全世界に向けて販売しています。 オンライン書店や出版社のウェブサイト、または電子書籍販売サイトなどを通じて購入することができます。日本やアメリカをはじめとする国々で、配信が行われているため、全世界からアクセス可能です。</p>
活動予定	<p>2023年度の活動内容 前年度からのテーマで引き続き活動 IT時代のファッションビジネス研究部会は、ITでAIを使った最新の情報で研究活動実施していく予定でです。現代のデジタル機能の進化でファッションを取り巻く環境がますます多様化しています。特に、AIが変化していく中で、学際的な研究考えて、新しい情報がどのように展開していくか研究中です。</p>

研究部会名	アパレルリサイクル研究部会
部会長/代表	井口 多恵子
メンバー	10名
活動結果	コロナ禍のため活動できず
活動予定	アップサイクルについての活動内容を検討する

研究部会名	ユニバーサルファッション研究部会
部会長/代表	杉野 公子
メンバー	10名
活動結果	コロナ禍において活動休止
活動予定	Fashion Good研究部会とのイベント共同開催

研究部会名	ファッション産業史研究部会
部会長/代表	小山田 道弥
メンバー	30名
活動結果	なし
活動予定	①リアル研究会の再開（次回は109回研究会になる） ②「ファッション産業年表」2015年以降の追加

研究部会名	リファッション研究部会
部会長/代表	木田 豊
メンバー	14名
活動結果	10年間実施の実績を持つ「お直しの日シンポジウム」は実施できなかった。 外部連携団体の行事に部会員の一部が参加した。 10/1 東京都中央区「子供とためす環境まつり」於：中央区佃島小学校 3/17 「企業のエシカル通信簿」於：日比谷図書館コンベンションホール
活動予定	SDG対応の為のテーマ探索と10年の実績は一区切りとしてFB学会の新方針に沿った活動方針の検討と再構築を行う。

研究部会名	+10Y研究部会
部会長/代表	篠崎 友亮
メンバー	20名
活動結果	<p>■以下、14回の研修会をコロナ禍の折、オンラインにてFashionStudies®との共済において開催した</p> <p>研修会① テーマ：あこや真珠貝のブランド“acoya”が創造する新たな物語 日 時：2022年4月27日(水) 16時開催</p> <p>研修会② テーマ：地域の産業文化からはじまる地域創生ストーリー 日 時：2022年7月13日(水) 15時開催</p> <p>研修会③ テーマ：アートを学ぶ ゲルハルト・リヒター展によせて リヒターのガラス《ビルケナウ》 日 時：2022年7月28日(木) 19時30分開催</p> <p>研修会④ テーマ：アートを学ぶ ゲルハルト・リヒター展によせて《ビルケナウ》 以前、以後 日 時：2022年8月4日(木) 19時30分開催</p> <p>研修会⑤ テーマ：NIGO®のクリエイティブティ 日 時：2022年6月30日(木) 19時開催</p>

活動結果	<p>研修会⑥ テーマ：日本企業のメタバース活用 伊藤忠インタラクティブの事例から 日 時：2022年10月26日(水) 19時開催</p> <p>研修会⑦ テーマ：「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」展から 日 時：2022年 8 月25日(木) 19時30分開催</p> <p>研修会⑧ テーマ：パリ 2023SS 報告会 日 時：2022年12月19日(月) 19時開催</p> <p>研修会⑨ テーマ：AIによるイラスト、デザイン画作成の現時点 日 時：2023年 1 月25日(水) 19時開催</p> <p>研修会⑩ テーマ：繊維から生まれた土「TUTTI®」(トゥッティ) 日 時：2023年 1 月31日(火) 18時開催</p> <p>研修会⑪ テーマ：ファッションと人権 古くて新しい問題 ～日本におけるファッション産業の持続的な発展～ 日 時：2023年 2 月22日(水) 19時開催</p> <p>研修会⑫ テーマ：デザイナーズブランド立ち上げ時における課題の乗り越え方を学ぶ BIBLIOTHERK 事例より 日 時：2023年 3 月 9 日(木) 19時開催</p> <p>研修会⑬ テーマ：B Corp申請の手順をB Corp認証取得支援コンサルタントの岡望 美さんと共に見ていく 日 時：2023年 3 月22日(水) 19時開催</p> <p>研修会⑭ テーマ：繊維のゴミから資源へ 日 時：2023年 3 月28日(火) 19時開催</p> <p>■以下、ファッションロー研究部会とFashionStudies®との共催研修会を2 回、オンラインにて開催した</p> <p>研修会① テーマ：イントロダクション『ファッションと法』ブランドを成功に導く ために知っておくべきルール 日 時：2023年 3 月 2 日(木) 19時～19時30分開催</p> <p>研修会② テーマ：本編『ファッションと法』ブランドを成功に導くために知ってお くべきルール 日 時：2023年 3 月30日(木) 19時開催</p>
活動予定	10年先のファッションを見据えるにあたって、現時点で、学ぶべきファッションのことを考えて行く。

研究部会名	デジタルテキスタイル研究部会
部会長/代表	城田 衣 (キヤノン株式会社)
メンバー	15名
活動結果	2022年8月 オンライン講演会2022 SUMMER Digital Textile Conference開催 参加者95名 2022年12月 オンライン講演会「デジタルテキスタイルアカデミー基礎編」開催 参加者53名 2023年3月 リアル (文化学園大学) & オンライン (ハイブリッド) 講演会 2023年3月 Digital Textile Conference開催 参加者79名
活動予定	2023年8月及び2024年3月に講演会を開催予定

研究部会名	ファッションロー研究部会
部会長/代表	関 真也
メンバー	20名
活動結果	2023/3/2 FashionStudies共催イベント開催 (イントロダクション) 2023/3/30 FashionStudies共催イベント開催 (本編)
活動予定	適宜研究会を開催

研究部会名	FashionGood研究部会
部会長/代表	山口 大人
メンバー	14名
活動結果	<p>【FashionGood lab.】 FashionGood研究部会が主宰する持続可能にファッションを楽しむ続けるためにはどうするかを考える場において以下、6回のイベントを開催しました。</p> <p>イベント① テーマ：「haishop×銀座ソーシャル映画祭×FashionGood lab. ザ・トゥルー・コスト上映会 & WORKSHOP」 開催日：4月22日(金) 開催時間：19時～21時30分 開催方法：オフラインとオンライン</p> <p>イベント② テーマ：「京屋染物店から感じる持続可能な美しさ」 開催日：6月23日(木) 開催時間：19時30分～21時 開催方法：オンライン</p> <p>イベント③ テーマ：「SUSTAINA TECHが目指す地球環境を守る新繊維産業とは？」 開催日：7月20日(水) 開催時間：19時30分～21時 開催方法：オンライン</p>

活動結果	<p>イベント④ テーマ：「ソーシャルオーデイトーファッション産業の透明性に求められる社会的責任監査」 開催日：8月30日(火) 開催時間：19時30分～21時 開催方法：オンライン</p> <p>イベント⑤ テーマ：「Next Fashion Designer of Tokyo —インクルーシブデザイン部門とは?—」 開催日：9月14日(水) 開催時間：20時00分～21時 開催方法：オンライン</p> <p>イベント⑥ FashionGood lab. #012 「義肢装具の世界」 開催日：3月9日(木) 開催時間：19時30分～21時 開催方法：オンライン</p>
活動予定	<p>今年度もイベントを中心に開催し、外部ネットワークの構築をしながら研究活動の方針について整えていきたいと考えています。</p>

研究部会名	リテール・ビジネスデザイン研究部会
部会長/代表	五月女 由紀子
メンバー	7名
活動結果	<p>年間で数回の会合を続けてきた。(オンライン会議含む) 特に10月末に提出した学会論文誌への論文投稿のため、8月～10月を中心に随時打ち合わせをしてきた。中国のZ世代アンケート調査分析とアパレル企業の中国オンライン戦略の資料収集などがメインとなり、論文完成にいたった。</p>
活動予定	<p>論文提出後の課題として、中国のオンラインビジネスの発展が飽和状態になった先に、オフラインの発展ある。欧米や日本とのリテールの発展の違いに着目して、オンラインに融合されたリテール現場の今後の研究を続けていきたい。</p>

■関西エリア

研究部会名	ファッションビジネスカリキュラム研究部会
部会長/代表	岩崎 一哉
メンバー	3人
活動結果	4月 講演 ファッションのDX化 5月 ブランド構築におけるAIの活用、販売拡大の戦略の具体例について 6月 グループワーク 販売改善案 7月～9月 長期運営店舗およびオリジナルブランドの販売促進 10月～12月 グループワーク 12月～2月 「神戸レタス」とのコラボ実習
活動予定	4月 講演 ファッションのDX化、ブランディング・ファイナンスの理解 5月 問題解決型ビジネスプランの立案 6月 ランド構築におけるAIの活用 7月～9月 長期運営店舗およびオリジナルブランドの販売促進 10月～3月 グループワーク・企業コラボ

研究部会名	ファッションデザイン研究部会
部会長/代表	山田 浩之
メンバー	3人
活動結果	<p>【テーマ】 ファッションデザインのトレンド感性とオンライン授業教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 5月より月1回 オンライン授業教材を検討し、実際の撮影を行った。 教材は婦人服のジャケットとした。 撮影回数は15回×3時間 合計45時間を使用した。アクションカメラを使用者の目線から収録した。 シルエットの出し方やミシンの使い方などが収録された。 音声、タイトル、テロップなどの映像処理は現在進行中。 実際にビデオ教材を見ての作図は未検証。次年度の課題となる。 トレンド感性との研究については未着手。 <p>【研究部会活動における課題・問題点】 撮影時間の捻出が難しい。</p>
活動予定	<p>【テーマ】 ファッションデザインのトレンド感性とオンライン授業教材(暗黙知)</p> <p>ファッションデザインのトレンド感性分類とオンライン授業教材についての情報収集とVTR教材の検証。</p> <p>全国大会での発表に向けて研究内容をまとめる。</p> <p>今回は暗黙知と形式知について研究する。</p>

研究部会名	ファッションマーケティング論研究会
部会長/代表	早川 雅明
メンバー	7名
活動結果	今年度はテレワーク会議で研究会を実施 第1回 6月9日 前年度まとめと新年度課題の検討 第2回 9月8日 ①消費者研究グループ：研究ノートの投稿報告と時期研究課題の検討 ②情報研究グループ：研究内容の検討 第3回 12月10日 ①グループ：新年度課題の検討。 ②グループ：研究運営の検討 第4回 3月8日 次年度研究体制、内容の検討
活動予定	①消費者研究グループ：D2Cビジネスの注目し、若者(Z世代)の消費動向の変容活動を深掘、研究していく予定。 ②情報研究グループ：ECビジネスの消費者側から観た考察をアンケート調査等を外部資料を活用した研究をしていく予定

研究部会名	和文化ファッション研究部会
部会長/代表	伊藤 信子
メンバー	5名
活動結果	4月：きもの普及活動について 今年度の内容検討 5月：普及についての提案について 学生の協力を得、意見交換（SNSなどについて） 6月～9月：高校・一般に「ゆかたの着付け」や「着付け講習会」を実施(10回) 7月：天神祭り「陸渡御列」巡行者着付け 8・9月：団体、大学にてきものに関する公演会実施 9月：講習会参加者 及び 講演会参加者からのアンケートをもとに検証 10月：本校ショーにおいて府内高等学校とのコラボ 日舞の衣装担当 11月：府内高等学校文化祭にて衣裳の提供・府内高等学校文化祭ショーにて衣裳の提供 1月：成人式着付け 12・1月：まとめと今後について
活動予定	より多くの人にきもの理解を深め、身近に感じてもらえるような普及活動を行っていく。 実際にきものに触れる機会・コーディネートなどの知識や着付けなどイベントや講習会を通じ伝えていく。

研究部会名	ファッション商業論 カリキュラム研究部会
部会長/代表	藤田 悟
メンバー	7名
活動結果	<p>■第1回オンラインワークショップ開催 2022年4月23日(土) 午後1時～午後2時50分 (Zoomにて) ・研究会本年度の研究概要について再確認 ・全国大会に向けて、各自が研究するテーマ内容の中間報告、プレゼンテーション、および進捗状況確認。</p> <p>■第2回オンラインワークショップ開催 2022年8月19日(金) 午後1時～午後3時05分 (Zoomにて) ・令和3年(2022)11月26日(土)「全国大会発表」に向けて 研究発表者についての研究概要説明および各研究会員の中間報告。 ・ループリック評価について各教育機関との実施内容をディスカッション</p> <p>■第3回オンラインワークショップ開催 2023年1月21日(土) 午後1時～午後3時00分 (Zoomにて) ①会計報告、会費と会員規定について ②本年度の報告書と来季の活動報告書案について (日程決定) ③2023年3月開催予定「関西支部大会発表」について ④関西支部大会に向けての各自の研究内容についての意見 ⑤研究内容の個人研究進捗状況</p>
活動予定	<p>学生のためにカリキュラム等に特化した研究活動を行うことと同時に、ニューノーマル時代の教育カリキュラム開発をすること(大学、専門職大学、短大、大学院等に向けたカリキュラム)が主で、その内容を教えられる教員となるように各自得意分野を研究する(学会発表、論文作成等成果物に残し業績も積む)ことと、企業や大学、専門学校などの枠を越えて実践的に役立つ総合ファッション教育カリキュラムの検証やファッションテクノロジー、ファッションAIのカリキュラムと業者間との提携、実務家教員の学び方教育(実務家教員のカリキュラム研究)、専門職大学の長期インターンシップのカリキュラム、リカレント教育カリキュラムも引き続き研究を行う。</p> <p>4月22日(土) ワークショップ (13:00～Zoomにて) 8月18日(金) ワークショップ (13:00～Zoomにて) 1月20日(土) ワークショップ 総括 (13:00～Zoomにて)</p>

【東日本支部】

支 部 長：中 村 賢二郎
運 営 委 員 長：北 折 貴 子
事 務 局：守 屋 知 江

1 会員数 個人会員92名 学生会員11名 法人賛助会員 2 社

2 2022年度の主な活動報告

(1)第21回東日本支部定期総会並びに講演会及び交流会

日 時：2022年 5 月21日(土) 13:00～15:00

場 所：学校法人杉野学園 第二校舎 小ホール

①定期総会

第 1 号議案 2021年度 事業報告並びに決算承認の件

第 2 号議案 2022年度 事業計画並びに予算承認の件

第 3 号議案 その他 全国大会について

②講演会

講 演：平野 大輔 氏 株式会社ティンパンアレイ 代表取締役社長

テーマ：「サステイナブル市場が目指す

二次流通市場のフロントランナーとしての使命」

③交流会

場 所：学校法人杉野学園 本校舎地下食堂

(2)ファッションビジネス学会2022全国大会

日 時：2022年11月26日(土)

場 所：東日本支部 学校法人杉野学園 杉野服飾大学 対面式開催

東日本支部より 口頭研究発表 6 報 ポスタープレゼンテーション 1 報 発表

(3)令和 4 年度 合同研究発表会・講演会及び交流会

日 時：2023年 2 月25日(土) 13:00～16:00

場 所：学校法人杉野学園 第二校舎 小ホール

④講演会

講 演：光野 真純 氏 みやび坂総合法律事務所 弁護士

演 題：「ファッション・ロー ～アパレル業界でも法律は武器だ～」

⑤研究発表 1 報

発表者：鈴木 康久 杉野服飾大学 教授

研究協力：日本流行色協会

テーマ：「現代的なファッショントレンド理解に向けた視座」

～2023AWメンズファッショントレンド&カラートレンド考察を通して～

⑥交流会

場 所：学校法人杉野学園 本校舎地下食堂

(4)2021年度 講演論文集No.16発行 (2022年 5月21日)

3 東日本支部運営委員会

日 時：2022年 5月21日(土) 11:00~12:00 学校法人杉野学園本校舎 3階会議室

日 時：2023年 2月25日(土) 11:30~12:00 学校法人杉野学園本校舎 2階会議室

【関西支部】

支 部 長：森 慈 郎

事 務 長：上 原 さと子

1 会員数 個人会員74名 学生会員10名 法人賛助会員6社

2 2022年度の主な活動報告

(1)関西支部役員会

2022年6月20日(月) オンライン会議

①定例役員会

1号議案 2021年度 関西支部活動報告・収支決算報告

2号議案 2022年度 関西支部活動計画

(2)ファッションビジネス学会2022全国大会

2022年11月26日(土) 東日本支部 杉野服飾大学

関西支部研究発表 口頭発表5報

(3)関西支部役員会

2023年3月4日(土) 大阪文化服装学院南館

①定例役員会

1号議案 2022年度 関西支部活動報告

2号議案 2022年度 研究部会の活動報告

3号議案 2023年度 関西支部活動計画

4号議案 2023年度 収支予算

5号議案 2023年度 研究部会の活動計画

6号議案 2023年度 役員について

(4)研究発表会

2023年3月4日(土) 大阪文化服装学院南館

①基調講演

「繊維のゴミから資源へ」

一般社団法人サーキュラーコットンファクトリー 渡邊 智恵子 氏

②研究発表 1報

【西日本支部】

支 部 長：坂 根 康 秀（香蘭女子短期大学学長）

事務局長代理：岡 田 絵梨奈

1 会員数 個人会員49名 学生会員0名 法人賛助会員0社

2 2022年度の主な活動報告

(1)2022年度定例総会

①定例総会

日 時：2022年7月9日(土) 於：香蘭女子短期大学（オンライン開催）

1号議案 2021年度事業報告・収支決算報告・監査報告

2号議案 2021年度会費納入状況・会員異動状況

3号議案 2022年度事業計画案・予算案

②特別講演会

日 時：2022年11月19日(土) 於：香蘭女子短期大学

講 師：ISSEY MIYAKE INC.取締役・デザイナー 宮前 義之氏

テーマ：「A-POC ABLE ISSEY MIYAKE 未来を織りなすものづくり」

(2)2022ファッションビジネス学会全国大会 参加

日 時：2022年11月26日(土) 於：杉野服飾大学

口頭発表：3報

ポスタープレゼンテーション：2報

(3)共催事業

①夏季公開講座（オンデマンド開催）

日時：2022年8月1日(月)～8月19日(金)

講師：香蘭女子短期大学 ファッション総合学科 助教 角谷 由加里氏

・講座Aコース【動画で学ぶ被服講座1 ストレートパンツ製作】

・講座Bコース【動画で学ぶ被服講座2 裏付きトートバッグ製作】

②夏期講習会

・講座Aコース【半袖シャツのドレーピング講座】

日時：2022年7月29日(金) 9:30～12:30

講師：香蘭ファッションデザイン専門学校 ファッションテクニカル科主任 野田部 寛之氏

・講座Bコース【ファッションイラストレーション講座】

日時：2022年8月27日(土) 基礎：9:30～12:30 応用：13:30～15:30

講師：ファッションイラストレーター 岡本 あずさ氏

・講座Cコース【物流倉庫アルバイトから会社を設立するまで
～マーチャンダイジングアドバイザー～】

日時：2022年8月26日(金) 13:20～15:30

講師：(株)エムズ商品企画 代表取締役 佐藤 正巨氏

2022年度 収支決算報告書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

単位：円

科 目	金 額
I. 収入の部	
会 費 収 入	3,728,000
研 究 会 ・ 講 習 会 収 入	0
論 文 誌 掲 載 料	160,000
雑 収 入	160,862
全 国 大 会 収 入	362,000
支 部 本 部 繰 入 金	471,225
基 金 か ら 繰 入 金	1,000,000
当期収入合計 (A)	5,882,087
前期繰越収支差額	11,654,693
収入合計 (B)	17,536,780
II. 支出の部	
管 理 費	
本 部 ・ 支 部 分 担 費	471,225
旅 費 交 通 費	40,675
通 信 費	43,378
印 刷 費	2,000
事 務 用 品 費	124,539
雑 給 与	1,544,563
雑 費	33,785
管理費合計	2,260,165
事 業 費	
学 会 誌 ・ 論 文 誌 発 行	1,233,818
全 国 大 会 費	624,325
研 究 部 会 費	81,290
総 会 費	214,664
講 演 会 費	166,509
会 議 費	106,802
企 画 運 営 費	900,511
賛 助 会 費	50,000
書 籍 費	2,673
事業費合計	3,380,592
支出の部合計 (C)	5,640,757
当期収支差額 (A)-(C)	241,330
繰越収支差額 (B)-(C)	11,896,023

財産目録（本部・支部）

(2023年3月31日現在)

単位：円

科 目	現 金	普通預金	郵便振替貯金	合 計
本 部	11,232	50,749	9,510,458	9,572,439
東 日 本	37,285	434,164	1,485,900	1,957,349
関 西	0	0	0	0
西 日 本	0	366,235	0	366,235
合 計	48,517	851,148	10,996,358	11,896,023

貸 借 対 照 表

(2023年3月31日現在)

単位：円

資産の部		負債の部	
現 金	48,517		0
普通預金	851,148	資本の部	
郵便振替貯金	10,996,358	繰越余剰金	11,896,023
仮払金	0	(当期余剰金)	
資 産 の 部	11,896,023	負債・資本の部	11,896,023

監査報告

ファッションビジネス学会定款第40条の規定により2022年度の決算報告について、帳簿・預金通帳・銀行残高証明書と照合の結果、期間の収支、期末における貸借対照表ともに適正に表示されていることを認めます

2023年5月1日

監事 雑賀 透



第2号議案

2023年度 事業計画と予算承認の件

(2023年4月1日～2024年3月31日)

事業計画案

1 2023年度ファッションビジネス学会全国大会の件

2023年度ファッションビジネス学会全国大会は、本部主催としてファッションビジネス学会創設30周年記念を兼ねて提案され、以下の予定で実施する。

開催予定 2023年11月18日(土)

2 論文誌発行

デジタル版のVol.28を2023年5月中に発行予定

3 研究発表及び研究会活動の充実と活性化

4 2024年度理事会・総会

2024年度理事会・総会・特別講演会を2024年5月中旬に開催予定

5 各支部の活動計画 (支部主催を抜粋)

【東日本支部】

(1)第22回ファッションビジネス学会東日本支部定期総会並びに講演会及び交流会

日時：2023年5月20日(土)

(2)ファッションビジネス学会2023全国大会

日時：2023年11月18日(土) 於：本部

(3)2023年度 合同研究発表会・講演会及び交流会

日時：2024年2月24日(土)

(4)2023年度 講演論文集NO.17発行 定期総会開催時に配布

(5)東日本支部運営委員会

定期総会開催日：2023年5月20日(土)

合同研究発表会開催日：2024年2月24日(土)

【関西支部】

- (1)関西支部役員会 2023年6月19日(月) 開催予定 於：上田安子服飾専門学校
- (2)ファッションビジネス学会 全国大会参加予定
- (3)関西支部役員会 2024年2月開催予定 於：大阪文化服装学院
- (4)関西支部研究発表会 2024年2月開催予定 於：大阪文化服装学院
第一部 基調講演 第二部 研究発表会 第三部 交流会

【西日本支部】

- (1)2023年度ファッションビジネス学会西日本支部定例総会
2023年6月17日(土)予定 於：香蘭女子短期大学
 - ①2022年度収支決算報告
 - ②2022年度定期総会報告
 - ③2023年度活動計画
- (2)ファッションビジネス学会2023全国大会参加予定
- (3)2023年度 主催事業 未定
- (4)2023年度 共催事業
 - 夏期講習会 2023年度7月末予定
 - ・YUKA&ALPHA 3D CAD講習
講師：(株)ユカアンドアルファオペレーター (調整中)
 - ・胸グセダーツの処理
講師：野田部 寛之氏
香蘭ファッションデザイン専門学校 ファッションテクニカル科主任
 - ・ファッションイラストレーション講座
講師：ファッションイラストレーター 岡本 あずさ氏
 - 夏季公開講座 2023年度8月「内容検討中」(オンデマンド開催)

2023年度 予算(案)

(2023年4月1日～2024年3月31日)

単位：円

科 目	予 算	2022年度決算
I. 収入の部		
会 費 収 入	4,150,000	3,728,000
研究会・講習会収入	50,000	0
論文誌掲載料	200,000	160,000
雑 収 入	250,000	160,862
全国大会収入	760,000	362,000
支部本部繰入金	550,000	471,225
		繰入 1,000,000
収 入 計	5,960,000	5,882,087
前期繰越金	11,896,023	11,654,693
収 入 合 計	17,856,023	17,536,780
II. 支出の部		
管 理 費		
本部・支部分担金	550,000	471,225
旅 費 交 通 費	100,000	40,675
通 信 費	50,000	43,378
印 刷 費	10,000	2,000
事務用品費	130,000	124,539
雑 給 与	1,650,000	1,544,563
雑 費	50,000	33,785
管理費合計	2,540,000	2,260,165
事 業 費		
論文誌発行	450,000	1,233,818
全国大会経費	1,320,000	624,325
研究部会費	90,000	81,290
総会費(含支部総会)	200,000	214,664
講演会費	150,000	166,509
会 議 費	150,000	106,802
企画運営費	1,000,000	900,511
賛助会費	50,000	50,000
書 籍 費	10,000	2,673
事業費合計	3,420,000	3,380,592
支 出 合 計	5,960,000	5,640,757
収 支 差 額	0	241,330
次期繰越金	11,896,023	11,896,023

第3号議案

2022年度活性化活動報告と2023年度計画の件

一昨年度に活性化5ヵ年計画の中で編成された以下の5委員会における活動報告と計画について以下のとおり報告する

- ◇総務委員会
- ◇論文審査委員会
- ◇研究委員会
- ◇国際交流委員会
- ◇企画広報委員会
 - イベント企画分科会
 - 情報誌・図書編集分科会
 - ホームページ・プレス分科会

その他の計画

活性化における2030年に向けた提言、および学会運営、研究活動について総合運営会議などで検討する。

2022 総務委員会 活動報告

組織 計6名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	鈴木 康久	東日本	理事	杉野服飾大学
事務長	市川 智美	本部	会員	文化ファッション大学院大学
委員	櫛下町 伸一	本部	理事	文化ファッション大学院大学
委員	増田 大助	本部	理事	ファッションビジネス学会事務局長
委員	播岡 充	関西	会員	大阪文化服装学院
委員	岡田 絵梨奈	西日本	会員	香蘭女子短期大学

活動報告

目 標	<p>活性化の一環で、本部事務局と理事会、総合運営会議、委員会/分科会と連携して学会をアピール、5カ年で会員（正会員・学生会員・賛助会員）の倍増を目指す</p>
2022結果	<p>年間で3回の委員会を開催（ZOOM）</p> <p>■会員増加に向けた施策案、人材育成支援に関する意見交換と次年度予定について検討</p> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状、会員数は微減の傾向にあり、魅力あるファッションビジネス学会をどのようにアピールしていくか学会全体の協力のもと、具体案を出していく必要がある。 ・賛助会員増強のためには、学会が発信する訴求力不足は否めない。 ・学生に対する学会の認知度不足 <p>施策案</p> <p>1. 正会員増加策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション系以外の大学、高校への会員勧誘 ・産学の有識者によるファッションビジネスの課題や問題点等の意見交換会を行い、入会へのきっかけをつくる ・各学校の産学意見交換会の内容を学会員限定で公開する ・支部ごとに目標数を決めて確実に実行していくという、会員勧誘の雰囲気作りが必要 ・創刊された「学会プレス」は現状として会員しか見られないが、会員を増強する目的として公開することも検討する ・学生会員を卒業後に正会員へ誘導する流れを作ると良い <p>2. 賛助会員増加策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛助会員の中に「準会員(仮)」を設ける ・ファッションテック関連企業、公的組織（地域の産業振興会など）の勧誘を強化 ・テクノロジー関連等、急成長中の企業を中心に勧誘を進める ・勧誘先企業への挨拶の仕切りは本部事務局が実施するが、理事会内の推薦者が同行し、声掛けの窓口になってもらう

2022結果	<p>3. 学生会員増加策</p> <p>FBアワードY：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者への勧誘、各学校からの声掛けを強化、SNS発信を開始する ・企業への協賛を働きかける ・エントリー者への会員勧誘 ・受賞者に「学生部会」活動の場を提供する ・賞品については副賞としてインターンシップ等の未来につながるインセンティブを提示 <p>他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションビジネス学会HPに求人票を掲載する
2023予定	<p>正会員および学生会員、賛助会員獲得のため、総務委員会で精査・検討したものを、理事会および総合運営会議、各委員会において具体的に実施していく。</p>

以上

2022 論文審査委員会 活動報告

組織 計4名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	砂長谷 由香	本部	理事	文化学園大学
事務長	井口 彰子	本部	会員	文化学園大学
委員	熊谷 伸子	本部	会員	文化学園大学
Web 相談役	安田 和史	本部	理事	(株)スズキアソシエイツ 取締役 法政大学講師

活動報告

目 標	学会活性化の一環で、これまでフィジカル版であった論文を2022年度からデジタル版に切り替えて運用、それによって論文投稿の促進とコスト削減をはかる
2022結果	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル版2022年度vol.28号の発行に向けた査読・編集作業を進めた * 投稿数は論文9報、研究ノート3報の計12報であったが、査読の結果、論文6報、研究ノート3報、取り下げ3報となった * 査読者は、投稿原稿に対して各2名としているが、審査結果により査読者追加を行うことや査読依頼に対する未回答や辞退が多く、また査読結果返却の遅れにより作業は大変難航 ・デジタル版発行に際し、委員会で改善点を挙げ検討・見直しを行った ・上記の検討内容については、次年度に理事会で報告し審議頂く * 査読期間確保に伴う投稿原稿提出締切日の見直し [現行10月末日⇒提案8月末日] * 査読者人数の見直し [1原稿に対する査読者 現行2名⇒提案3名]
2023予定	<ul style="list-style-type: none"> ①投稿原稿締切日の見直し [現行10月末日⇒提案8月末日] ②査読者人数の見直し [現行2名⇒提案3名] ①②について理事会で審議頂く ③引き続き、改善点を挙げ見直しを行う

以上

2022 研究委員会 結果報告

組織 計6名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	山本 ひとみ	関西	理事	神戸国際大学
事務長	鶴 鉄雄	関西	会員	上田学園
委員	青木 稔	本部	会員	文化ファッション大学院大学
委員	五月女 由紀子	東日本	理事	杉野服飾大学
委員	平野 大	関西	会員	国際ファッション専門職大学
委員	岡田 絵梨奈	西日本	会員	香蘭短期大学

活動報告

目 標	<p>学会活性化の見地から、本委員会は研究ファーストをテーマに、英国などの「ファッションスクール」の制度的な特徴を理解し、日本の専門職教育の体系化に役立てることに重点を置きながら日本の文献と海外の文献研究と、さらにファッション企業の事例研究を組み合わせて実施していく。</p>
2022結果	<p>2021年度に問題提議した以下について、現状分析と問題解決への方向性を研究するため、委員会を計8回開催（zoom）し、2023年度の学会情報誌に報告書として提出することを目標とした。</p> <p>〈2021年度の問題提議〉</p> <p>(1)ファッションに特化した社会人ドクター（博士）制度がないこと (2)非ファッション系の博士課程では実務経験の価値を認めていないこと (3)学術研究として「ファッションビジネス学」が認知されていないこと (4)ファッションビジネス系の「博士学位」を取得する教員が少ないこと *現状分析のため博士だけでなく修士取得についても分析した</p> <p>〈現状分析と結果〉</p> <p>(1)海外ファッション企業の人材学歴と実態をヒヤリング 商社とグローバルブランドの海外勤務経験者2名にレクチャーを受けた結果、ヨーロッパでは修士、博士の取得者にあまりこだわりはないが、アメリカでは博士、修士号取得者は待遇が良いことが理解できた。</p> <p>(2)国内外企業の修士、博士号取得者の採用実態調査 2022～2023年度の外資系企業と国内企業の採用実態を調査した結果、外資系企業は修士、博士号取得者への採用ニーズは高く年取も高いことが判明。特にIT系分野と開発系分野の中途採用基準のレベルが高く管理職募集が主となっている。逆に国内企業は業務内容レベルも低く旧態依然とした募集要項であった。</p> <p>(3)海外の修士、博士教育のカリキュラム研究と海外文献研究 海外の有名大学や専門学校のカリキュラムそのものは、日本と大差はあまりないが、大きく違うところは、修士、博士を取得する実践的意味が大きく就職に絶大な効果があること、また大学の学習方法がPBL（Project Based Learning）主体で、ジョブ型就職と直結していることである。特に参考になったのは、ジョブ型就職へ導くための仕組み作りである。学校間や学生間の連携が図れる大きなグループを構築し、共有教育やビジネスクリエーション等、相乗効果を発展させている仕組みは参考になった。</p>

2022結果	<p>〈2022年度研究の総合結果〉</p> <p>本研究会での現状分析により、外資系企業が求めてくる人材を育成する教育機関が、日本ではほとんどないことが解明できた。そのためグローバル化と持続成長を担う教育機関の一本化とそのカリキュラム開発が急務であるが、まずは国内外問わずファッション企業が成長するための人材育成を、リカレント教育含めて実施していくことが重要かと思われる。</p> <p>現在、日本の大学ではファッションビジネスに特化した修士、博士号取得が困難なため、経済学、経営学の修士、博士号を取得せざるを得ない。したがってファッションビジネスに関する修士、博士クラスの実践的学問を、リカレント教育として学べる仕組み作りが必要だと考える今後、学生や社会人に向けてジョブ型就職の環境を構築できるよう、産学連携による体制作りを、FB学会が補強できるよう提案したいと考えている。</p>
2023予定	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度と同様に研究ファーストをテーマに活動していく ・2023年度の学会情報誌に報告書として掲載する (7月末に委員会内で提出し8月末に情報誌に提出) ・2023年11月の全国大会にて学会発表をする ・現在6月に1回の全体委員会を開催予定であるが、本研究はグループを2つに分けて研究しているため、各グループで数回にわたり個別研究会を実施していく

以上

2022 国際交流委員会 活動報告

組織 計10名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	岡本 義行	本部	理事	法政大学
事務長	松岡 依里子	本部	理事	国際ファッション専門職大学
委員	上田 哲也	関西	理事	上田学園理事長
委員	梶原 莞爾	本部	理事	信州大学
委員	中村 茂	本部	理事	元神戸松蔭女子学院大学
委員	土屋 淳二	本部	理事	早稲田大学
委員	五月女 由紀子	東日本	理事	杉野服飾大学
委員	Francesco Formiconi	本部	会員	ディーゼルジャパン
委員	菊田 琢也	本部	会員	昭和女子大学
委員	増田 大助	本部	理事	ファッションビジネス学会事務局長

活動報告

目 標	ファッションおよびファッションビジネスに関係のある海外および国内の学会・学者・書籍・論文・文化・価値観など様々な情報の収集、発信、交流に務めることで、学会の再構築、活性化に寄与する
2022結果	<p>国際交流員会によるアンケートを会員に実施した。 ZOOM会議を3回行った。</p> <p>①アンケート結果（95名の回答）から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流に関心のある人は、約7割であった。 ・国際交流経験者が多く、中国、シンガポール、イタリア、バングラディッシュ、ロシア、オーストリア、ドイツ、アメリカ、フランス、南アフリカ、イギリス、ニュージーランド、韓国など、学生交流や駐在など仕事上で関わっている。 ・希望の国際交流については、イタリア、中国、アベトナム、アフリカ、イギリス、フランス、アメリカなど、企業訪問、学校訪問、サステナブルなファッションについて調査、国際ジャーナルへの投稿、フランスとイギリスのファッションデザインの指導の方法など、詳細な内容であった。 ・その他、文化学園国際交流センターの協力、リモートによる国際交流など積極的に交流すべきだという意見が多かった。 <p>②上田学園理事長と校長から、国際交流の取り組みについて具体的に解説してもらった。上田学園の国際交流は、実際的で実務的なので、学生や募集にも非常にプラスの影響があるとのことであった。</p>
2023予定	<ul style="list-style-type: none"> ・HPコンテンツのGAKKAI PRESS（年2回学会情報発信）において、国際交流を開催した内容について学会プレスで報告し、委員会としての情報発信と反応の確認について検討する。 ・オンライン交流だけでなく、海外視察を行う。

以上

2022 企画広報委員会 イベント企画分科会 活動報告

組織 計7名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	東日本	理事	ファッションリンクス
分科会長	篠崎 友亮	本部	理事	FashionStudies®主宰
事務長	内海 里香	本部	理事	文化ファッション大学院大学
委員	山岡 真理	本部	会員	文化ファッション大学院大学
委員	山口 大人	本部	理事	MASATOYAMAGUCHI DESIGNOFFICE 代表/デザイナー
委員	平井 秀樹	本部	理事	国際ファッション専門職大学
委員	播岡 充	関西	会員	大阪文化服装学院

活動報告

目 標	活性化の一環として、主として学生会員の獲得・会員メリット訴求のためのイベントの企画運営を行う
2022結果	<p>・夏休み8月に学生アワードを実施 →学生アワードについては、「あなたが提案したいファッションビジネス(ファッションのミライ、DX、サステナブル、産地、サプライチェーン) *「ファッション」の定義/範囲はアパレル(衣料)に限定」をテーマに募集し、申込み総数=472名(84チーム:302名、個人:170名)、企画応募総数=342名(67チーム:254名、個人=88名)と、初回にしてはまずまずの関心を持って頂けたイベントとなった。最終審査に選ばれた10名/チームで、8/6(土)にオンラインzoomウェビナー形式で最終プレゼンを行い、優勝~3位を決定、残り7チームにも最終審査賞を授与した。</p> <p>ファッションビジネスの未来を担う学生会員の獲得、斬新・ユニークなファッションビジネスの創造を願っての試みであったが、一定の成果はあったと考えている。本イベントに関しては、2023年度よりイベント企画分科会ではなくファッションビジネス学会本部の主催として実行員会組織を立ち上げて、継続実施する。</p> <p>・夏休み8月と冬休み12月の年間計2回、産地研修を実施 →8/23(火):富士吉田産地、12/26(月):墨田産地の産地研修を実施。富士吉田については、ファッションが完成するまでの工程すべてを1か所で見学できるということが選定理由となった。また、墨田に関しては、墨田区産業観光部産業振興課のご協力を頂き、墨田区のニット産業の歴史から振興策までのレクチャーも付いた研修となった。一人ではなかなか難しい工場・工程の見学を学会イベントとして行い、会員メリットの訴求を目指していたが、リピーターも少なくなく、参加者同士の情報交換・交流も活発化してきており、予想以上の実績・効果があった。</p>
2023予定	<p>・夏休み8月と冬休み12月の年間計2回、産地研修を継続して実施予定。 →具体的な研修地は現時点では未定であるが、2023年度は単に工場・工程の見学にとどまらず、研修先企業等とのディスカッションなども盛り込みながら、産地研修の深耕・質の向上にも取り組んでいく。</p>

以上

2022 企画広報委員会 情報誌・図書編集分科会 活動報告

組織 計7名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	東日本	理事	ファッションリンクス
分科会長	同上	同上	同上	同上
事務	江良 智美	本部	会員	和洋女子大学非常勤講師
委員	増田 大助	本部	理事	ファッションビジネス学会事務局長
委員	依田 素味	本部	理事	日本経済大学教授
委員	安田 和史	本部	理事	(株)スズキアンドアソシエイツ取締役/ 法政大学講師
委員	平野 隆円	本部	会員	化粧心理学者
委員	渡邊 慶子	本部	会員	アトリアサボ

活動報告

目 標	論文誌と棲み分けしたうえで、学会関連の研究情報としてHPからデジタル発信。それによって会員の研究発表を拡充するとともに、内外に学会をアピールし、研究や入会を促進する。
2022結果	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に「GAKKAI PRESS」創刊号を発刊。 ・編集内容（総会及び全国大会の基調講演やシンポジウム、会員の研究発表、寄稿レポート、調査資料など）と編集費用について検討し、2号発行に向けての準備。 ・学会関連の情報を扱うため、分科会名を「情報誌/図書編集分科会」と改称した。 ・組織改編として分科会長と事務担当を再選し、全国レベルの委員編成と発信情報の内容を考慮し、コンテンツの企画については研究委員会と連携していくことを検討した。
2023予定	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「GAKKAI PRESS」の内容を精査。 ・3号（10月発行予定）の編集作業。 ・編集を担当する委員の作業負担を軽減するため、作業を外注に切り替える。 ・依頼原稿の投稿に使用しているGoogleフォームについては各号ごとではなく、年度単位で作成、運用する。

以上

2022 企画広報委員会 ホームページ/プレス分科会 活動報告

組織 計4名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	東日本	理事	ファッションリンクス代表
分科会長	依田 素味	本部	理事	日本経済大学
事務長	古田 賢	本部	会員	立命館大学大学院
委員	増田 大助	本部	理事	ファッションビジネス学会事務局長
学生 スタッフ	文化服装学院ファッションプロモーションコースから公募した学生5名からの意見をHPやSNS活用の参考とした。2023年度は同コースからSNS/動画活用のPRを目的に募集する。			

活動報告

目 標	活性化の一環、デジタル化において学会ホームページを活用、PRを強化し、研究促進と会員増強を目指す。
2022結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ編集分科会とプレス編集分科会を統合し、HP/プレス分科会と改名した。 <p>〈ホームページ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度2021年11月に全面的なリニューアルを実施して、会員情報誌GAKKAI PRESSのHPアップ含め、2022年度は安定して運用ができた。 ・ リニューアル後は会員への案内通知を一斉メールと同時にHPにアップし、案内通知とアピールを強化した。 ・ 総会において、オンライン交流会をメタバース空間で実施し、会員間の交流を図ることができた。 <p>〈プレス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年11月に開催した全国大会のPRと参加者増員を目的に、業界メディアや新規の学校等にプレスリリースを送付、結果として業界メディアでは織研新聞に結果が掲載された。 ・ イベントや研究会など年間でホームページへの告知、および会員への一斉メール通知を63報行った。
2023予定	<p>〈ホームページ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員間の交流、新規会員獲得のために、学生サークルによるSNS活用に向けて、具体的な検討を行う。 ・ 会員への一斉メールの見落としに備えて「一斉メールについてのお問い合わせ」欄を新設する。 ・ 「検索」コンテンツ欄の内容については、検索サイトで済むことを考慮して削除し、新たにリクルートなど会員メリットに通じる内容を掲載する。 <p>〈プレス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の業界メディアだけでなく、Webメディアやインフルエンサー、口コミなどを活用したPRによる動員や入会の促進を検討する。

以上

第4号議案

定款および運営内規の一部改訂について

定款および運営内規の部分的改訂を以下のとおりとする

ファッションビジネス学会定款

第3章 会員

第8条 会員の種類

本会の会員は次の4種とする。

- (1) 正会員
- (2) 準会員
- (3) 学生会員
- (4) 賛助会員

第9条 正会員および準会員

正会員は、ファッションおよびファッションビジネスに関連する学理とその応用に関する相当の学識、または経験を有するものとする。

準会員は、正会員の上記資格規定に準拠するが、論文誌への投稿権および全国大会研究発表会での研究発表権を行使する意志のない人に限定する。

第11条 賛助会員

賛助会員は、ファッションおよびファッションビジネスに関連する団体、企業、学校、または個人で本会の目的を賛助するものとする。

賛助会員の団体、企業、学校は、会費一口につき、その職員、社員、教員15名まで全国大会における基調講演や研究発表、定期総会における特別講演などへの参加権利を有する。

第12条 会費

1. 会員は、次の種別に従って会費を納めなければならない。
 - (1) 正会員……年額5,000円
 - (2) 準会員……年額4,000円
 - (3) 学生会員…年額2,000円
 - (4) 賛助会員…年額1口以上（1口50,000円とする。）
2. 既納の会費は、いかなる理由があっても返還しない。

ファッションビジネス学会運営内規

第4章 運営4委員会と研究委員会

第8条 運営4委員会と傘下分科会

1. 総務委員会は、本部事務局と協力して、財務、組織、渉外に関する業務を担当する。
 - 1) 予算および決算に関する事項を担当し、財政基盤の充実と健全化をはかるための方策を策定する。
 - 2) 他の委員会などから要求のあった年間および随時の予算案について審議し、裁定する。
 - 3) 会員（正会員・準会員・学生会員・賛助会員）の拡大計画および支部の新設計画を理事会に提案し、承認後は主導的役割を果たす。
 - 4) 本会主催のイベントに際して、共催・後援・協賛に関する官公庁・駐日外国公館・他学会・関連産業団体・企業などとの折衝に主導的役割を果たす。
 - 5) 他学会・団体などからの共催・後援・協賛依頼に際して、諾否を決める。
 - 6) 政府機関や企業からの調査・研究の受託に際して主導的役割を果たす。
 - 7) 会員の資格停止、除名について理事会に提案し、承認後は事務局とともに処理に当る。

第5章 研究部会

第10条 研究部会の運営

1. 研究部会は、研究開発テーマが明確にわかる名称を名乗るものとする。
2. 研究部会は、正会員、準会員、学生会員によって構成し、定期的に研究会を開催しなければならない。ただし、非会員を臨時に講師あるいは聴講者として招くことを妨げない。
3. 研究部会は、部会員個々の研究開発活動とその発表を支援し促進するため、研究会、講演会、セミナー、シンポジウム、展示会などのイベントを主催できるものとする。
4. 研究部会が主催するイベントの参加者は、会員・非会員を問わず、支部の規模を超えるものであってもよい。形式もリアルとリモートを問わない。
 - 1) 研究部会が主催するイベントについては、企画・広報委員会（4分科会）との緊密な連携をはかるものとする。
5. 研究部会の運営経費は、研究開発費、イベント関連費を含めて独立採算制を原則とし、独自の積立金をもつことを妨げない。
6. 運営経費について、特別な事情から本部・支部の補助を必要とするときは、次年度活動計画書に収支予算案を記載して申請するか、必要とする時期の1か月前までに計画書を研究委員会に提出して、総合運営会議または支部運営委員会の承認を受けなければならない。ただし、全額補助にならない場合もある。
7. 学生会員だけによる研究部会の設立や、研究部会内での学生会員チームの編成を妨げない。

第11条 研究部会の新設、存続および解散

1. 新規研究部会は、主唱者が研究委員会の承認を得た特定のテーマを掲げて加入者を募集するという方法によって設置される。主唱者は正会員、学生会員に限るものとする。
2. 新規研究部会の設置は、理事会または総合運営会議の承認事項とする。
3. 新規研究部会の設置および存続の要件は、次のとおりとする。
 - 1) 参加人数が5名以上であること。ただし、正会員が半数を下回らないこと。

- 2) 1年に2回以上、研究会を開くこと（研究会は、部会員の研究開発に関する中間発表や討議および招待講師のレクチャーの場とする）
- 3) 部会員の1人が隔年で1本の論文か報文（研究ノートあるいはレポート）を本会の論文誌・学会情報誌「GAKKAI PRESS」のいずれかに発表、あるいは研究開発の成果を本会主催の研究発表会で発表すること。
4. 研究部会は、年度末に活動報告を研究委員会に提出しなければならない。
5. 研究部会の存続は、理事会の承認事項とする（2年間にわたって存続要件が満たされなかった場合および解散の申請があった場合は、解散とする）

第8章 会員

第16条 会員の所属

1. 会員は、必ず一支部に所属するものとする。
2. 正会員、準会員、学生会員は、複数の研究部会に所属することができ、他支部の研究部会への加入も妨げない。

第17条 会員の義務・恩典と除名

1. 会員は、定款にもとづいて、所定の会費を支払うものとする。
2. 会員には、定款で定めるほかに、次の恩典が与えられる。
 - 1) 本会の論文誌デジタル版、学会情報誌（GAKKAI PRESS）デジタル版、ホームページなどの配信。
 - 2) 論文誌デジタル版への論文・研究ノートの投稿（掲載は論文審査をパスしたものに限り、所定の掲載料を支払わなければならない。ただし、準会員にはこの恩典はない。
 - 3) 学会情報誌（GAKKAI PRESS）デジタル版への原稿の投稿。
 - 4) 研究発表会での研究成果発表
 - 5) 本部、委員会、研究部会および支部が主催するイベントへの参加・聴講。
3. 次の会員は、除名するものとする。
 - 1) 会費支払いの督促が3回以上あったにもかかわらず、1年間滞納した者。
 - 2) 本会の名誉を著しく傷つけた者。

第10章 付則

第22条 「運営内規」の改訂と施行

1. 運営内規で規定されていない事項については、総務委員会と本部事務局が関係のある機構と協議して、当面の解決をはかり、必要と判断される場合は、運営内規に条項を追加するものとする。
2. 運営内規は、毎年年度の総会後に見直し、必要な改訂を行って、総合運営会議、理事会の承認を受けたあと、直ちに発効するものとする。
3. 運営内規の見直しは、総務委員会と本部事務局が共同して行い、総合運営会議、理事会への提案は本部事務局が行う。
4. この運営内規は、2023年5月13日から施行する。

以上

第5号議案

役員並びに名誉会員

2023年5月1日現在（敬称略）

会長代行	岡本 義行	法政大学特任教授 博士（経済学）
副会長	櫛下町 伸一	文化学園理事 文化ファッション大学院大学 学長
理事	依田 素味	日本経済大学大学院 経営学研究科 教授 博士（被服環境学）
	上田 哲也	上田学園理事長
	内海 里香	文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 教授
	梶原 莞爾	信州大学繊維学部コーディネータ
	北折 貴子	杉野服飾大学 服飾学部 学部長
	坂根 康秀	ファッションビジネス学会 西日本支部長
	佐々木 幸二	織研新聞社 代表取締役社長
	篠崎 友亮	ファッションビジネス学会 事務局次長 FashionStudies®主宰
	首藤 眞一	ブランドニュース株式会社代表取締役 文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 教授
	鈴木 康久	杉野服飾大学 服飾学部 教授
	砂長谷 由香	文化学園大学 教授
	五月女 由紀子	杉野服飾大学 服飾学部 教授
	土屋 淳二	早稲田大学 文学学術院 教授
	中村 賢二郎	杉野学園理事長 ファッションビジネス学会 東日本支部長
	中村 茂	元神戸松蔭女子学院大学教授・ 文化ファッション研究機構共同研究員
	萩 平 勉	一般財団法人ファッション産業人材育成機構 IFIビジネススクール 理事長
	早川 雅明	成安造形大学名誉教授
	平井 秀樹	国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 教授 博士（経営学）
	福永 成明	ファッションビジネス学会 専務理事 ファッションリンクス代表
	増田 大助	ファッションビジネス学会 常務理事・事務局長
松岡 依里子	国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 教授	
森 慈郎	大阪文化服装学院会長 ファッションビジネス学会 関西支部長	
安田 和史	株式会社スズキアンドアソシエイツ取締役 日本知財学会 事務局次長 法政大学 理工学部 講師	
山口 大人	MASATO YAMAGUCHI DESIGN OFFICE代表 NPO法人 ユニバーサルファッション協会 理事長	
山本 ひとみ	神戸国際大学 経済学部 教授	
監事	雑賀 透	株式会社島精機製作所 営業統括部国内営業部長
名誉会員	尾原 蓉子	元WEF創設者・名誉会長 元IFIファッションビジネススクール学長
	小山田 道弥	ファッション総研代表
	馬場 彰	元日本ファッション協会理事長 元オンワードホールディングス名誉顧問
	二丸 雄策	元ファッションビジネス学会事務局長

ファッションビジネス学会 会員数の推移

(2023年3月31日現在)

	個人会員	学生会員	計	法人賛助会員
2012年度	493名	29名	522名	19社
2013年度	466名	25名	491名	20社
2014年度	463名	23名	486名	20社
2015年度	463名	28名	491名	21社
2016年度	446名	24名	470名	20社
2017年度	455名	15名	470名	19社
2018年度	447名	17名	464名	19社
2019年度	449名	18名	467名	17社
2020年度	462名	23名	485名	15社
2021年度	454名	29名	483名	15社
2022年度	436名	58名	494名	15社

(年度末時点の会員数)

【2022年度内訳】

	個人会員	学生会員	計	法人賛助会員
本 部	221名	37名	258名	7社
東 日 本	92名	11名	103名	2社
関 西	74名	10名	84名	6社
西 日 本	49名	0名	49名	0社
計	436名	58名	494名	15社



The Japan Society for
Fashion Business

ファッションビジネス学会

- 本部 〒151-8523
東京都渋谷区代々木3-22-1 文化学園大学内
TEL・FAX (03) 3299-2378
MAIL : fbgakkai-honbu@bunka.ac.jp
-
- 東日本支部 〒141-8652
東京都品川区上大崎4-6-19 杉野服飾大学内
TEL (03) 3491-8151 FAX (03) 3491-2605
MAIL : fbeast@sugino.ac.jp
- 関西支部 〒532-0005
大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 大阪文化服装学院内
TEL (06) 6350-0317 FAX (06) 7508-3152
MAIL : info@kfcc-jp.com
- 西日本支部 〒811-1311
福岡県福岡市南区横手1-2-1 香蘭女子短期大学内
TEL (092) 581-1538 FAX (092) 581-2200
MAIL : fb-nishi@g.koran.ac.jp